

マス・コミュニケーション論 II

科目ナンバリング SOC-106
選択 2単位

木下 浩一

1. 授業の概要(ねらい)

われわれは日々、さまざまなコミュニケーションを行なっています。近年増加しているのは、SNSを介したコミュニケーションです。一方でマス、つまり不特定多数によるコミュニケーションは、減少傾向にあります。

しかしながら、世の中で何が起きているのかを知るのには、主にマス・メディアを通じてです。みなさんもマスの一員です。みなさんが住む「社会」や「世界」を、マス・コミュニケーションの観点から捉え直してみましょう。

本講では一部、ペアワークなどを行います。他の参加者と意見や考えを共有しましょう。

*新型コロナ・ウイルスの状況によって、内容を変更する場合があります。コロナ禍が維持・拡大の場合、コロナ関連のマス・コミュニケーション状況を論じます。

2. 授業の到達目標

- 1)メディアごとに、マス・コミュニケーションの良い点や悪い点、あるいは問題点や課題を挙げられる。
- 2)マス・コミュニケーション研究における概念や理論を用いて、具体的な事例について考えることができる。

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート(60%)と課題提出(40%)をもって評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

*教科書は特に指定しない。

参考文献

吉見俊哉 『メディア文化論:メディアを学ぶ人のための15話』 有斐閣、2012年

佐藤卓己 『現代メディア史』 岩波書店、2018年

5. 準備学修の内容

▼授業では新聞記事を多用します。新聞記事や授業の内容から、1)興味関心を広げ、2)関心を絞り込み、3)特定の事例について調べ、4)再び受講してください。

6. その他履修上の注意事項

▼「マス・コミュニケーション論 I」(前期)を履修していることが望ましい。

▼アクチュアルな時事問題を積極的に取り入れていきます(例:新型コロナ・ウイルス、京都アニメーション放火殺人事件、「教師問いじめ問題」)。そのため、シラバス上の授業内容と相前後する場合があります。

▼この科目は今般の情勢に対応して履修者の制限をする可能性があります。履修登録にあたっては大学のホームページの<インフォメーション>で関連情報を確認してください。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス、イントロダクション【開講はLMSになります。対面では行いません】

【第2回】 メディアとイベント①:オリンピック
*第2回以降、新型コロナ・ウイルス関連を多く採り上げる可能性がある。

【第3回】 メディアとイベント②:新聞と高校野球

【第4回】 テレビと教育①:クイズ番組

【第5回】 テレビと教育②:ワイドショー

【第6回】 テレビの吹き替えをめぐるマス・コミュニケーション:声優の多様化

【第7回】 質疑応答とペアワーク

【第8回】 前半のまとめと中間試験【開講はLMSになります。対面では行いません】

【第9回】 中間試験のフィードバック

【第10回】 カルチュラル・スタディーズや心理学:マス・コミュニケーション研究の関連領域

【第11回】 SNSとマス・コミュニケーション

【第12回】 マス・コミュニケーションは今後どうなるのか①:オールドメディア(新聞・テレビ)の将来

【第13回】 マス・コミュニケーションは今後どうなるのか②:動画SNS(YouTubeなど)の興隆

【第14回】 質疑応答とペアワーク

【第15回】 まとめと期末試験